

山口型竹産業創出事業効果検討会における意見について

県では、令和7年度から、地方創生交付金（新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金））を活用し、竹利活用の取組を進めています。

このたび、令和7年度の取組について、事業関係者よりご意見をいただきましたので、下記のとおり、公表いたします。

会議名：山口型竹産業創出事業効果検討会

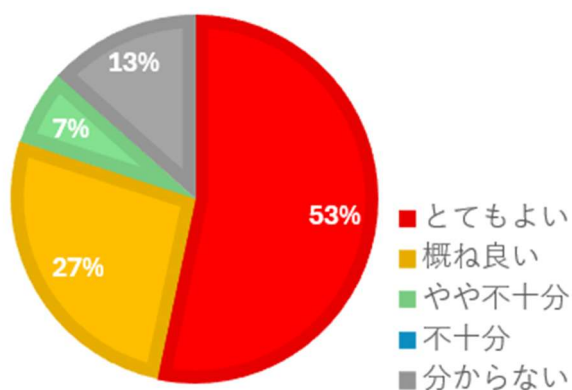
日 時：令和8年7月21日（火）

場 所：宇部市大字小野 竹ラボ（旧小野中学校）

参加者：県内の竹に関わる多様な事業者等 15名
（欠席者は後日書面決議）



【1】事業の内容や進捗状況について

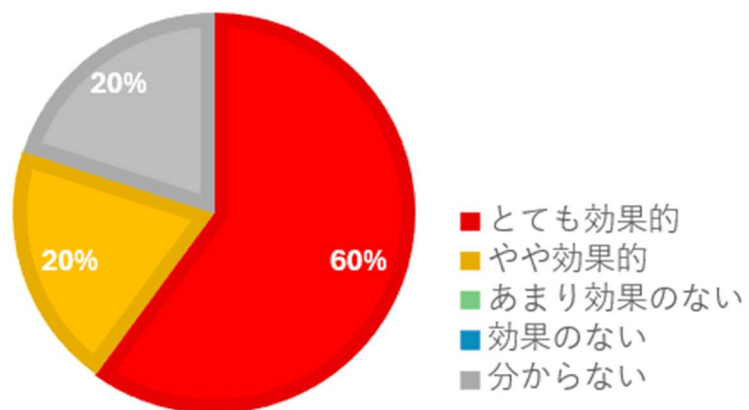


（主な理由や意見）

- ・事業立ち上げもあった中、取組1年目は迅速という印象。
- ・本取組の効果として、地域の関心の高さがあり、様々な場面で、竹市場や竹林経営マイスターの話が話題として上がってくる。地域の関心が高いのは良いこと。
- ・竹の販売がまだ少ない。
- ・進捗状況が見えるような状況になるとよい。
- ・地場産業の育成にも有効であると考える。
- ・未利用竹資源の利用促進に一層強力に取り組むべきと考える。

【2】KPI（5つの指標）達成状況

本事業における重要業績評価指標（KPI）増加分				実績値 (R8.3)
指標	事業開始前	指標値 (R8.3時点)	単位	
県産竹材産出額	41,068	49,528	千円	50,596
やまぐち竹林経営マイスターの認定者数	0	14	者	25
県産竹材供給量	1,500	1,800	t	1,848
竹市場等の取引件数	0	60	件	10
交流会等の参加人数	100	130	者	128



（主な理由や意見）

- ・一定の効果は見られる。
- ・効果を求めすぎると負担が大きくなると思う。
- ・竹材利用者とのマッチング強化や需要拡大に向けた取組をさらに進めることが重要と考える。
- ・今後、S材（希少種）の取引拡大や、高く売るための一次加工の取組、販路の拡大に力を入れていくべきと考えている。
- ・竹クラウドの竹材取引システムでの取引が開始されると県外からのオーダーを受けやすくなるため、県のシステム開発に期待している。
- ・過去の県の取組から、県産竹のブランド化は費用対効果の面からも効果はあまり期待できないと考える。

【3】改善方法や今後の展開への期待

- ・竹チップの原料コストをできるだけ下げるとの取り組み状況とその可能性、それによる予想最低チップ価格（売り渡し単価）を知りたい。
- ・マイスターや竹材の供給量も増えているとのことなので、機会があれば、竹市

場を利用したい。

- ・計画に届かなかった指標について、広報活動の強化などで達成できるようになれば良い。
- ・竹を高く販売出来る所をさがしていく必要があると思う。
- ・竹クラウドの活用竹林情報の見える化や需給マッチングが進み、安定的な竹材供給につながることが期待され、竹資源の有効活用や放置竹林対策に資する情報共有を引き続き進めるとともに、地域の竹林整備や竹材利用の促進に向けて、県と国有林が連携を深めていくことを期待する。
- ・本事業は未利用森林資源の循環利用推進の重要な取組であると考えてる。
- ・竹資源のエネルギー利用にも積極的に取り組むことを期待する。

【問４】その他全般意見

- ・ホームページやメール等により事業内容の情報（いきさつや課題、経過を含めた詳細情報）をできるだけながしてほしい。
- ・竹材の有効利活用、周知広報に期待している。
- ・竹産業の振興や放置竹林対策の推進に大きな可能性を有していると考える。